

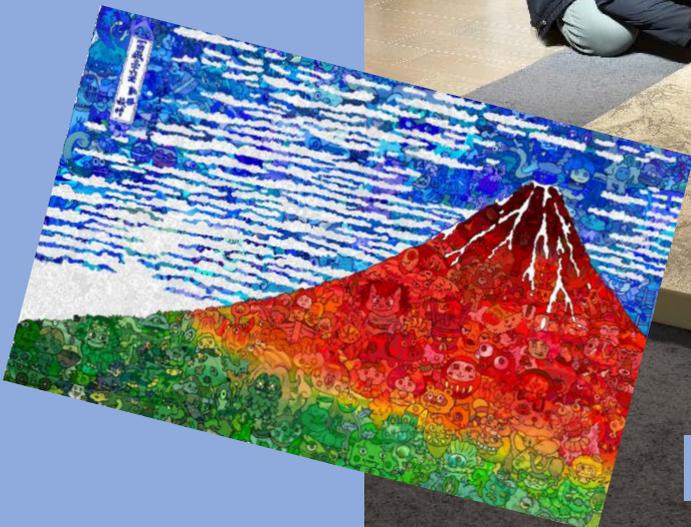
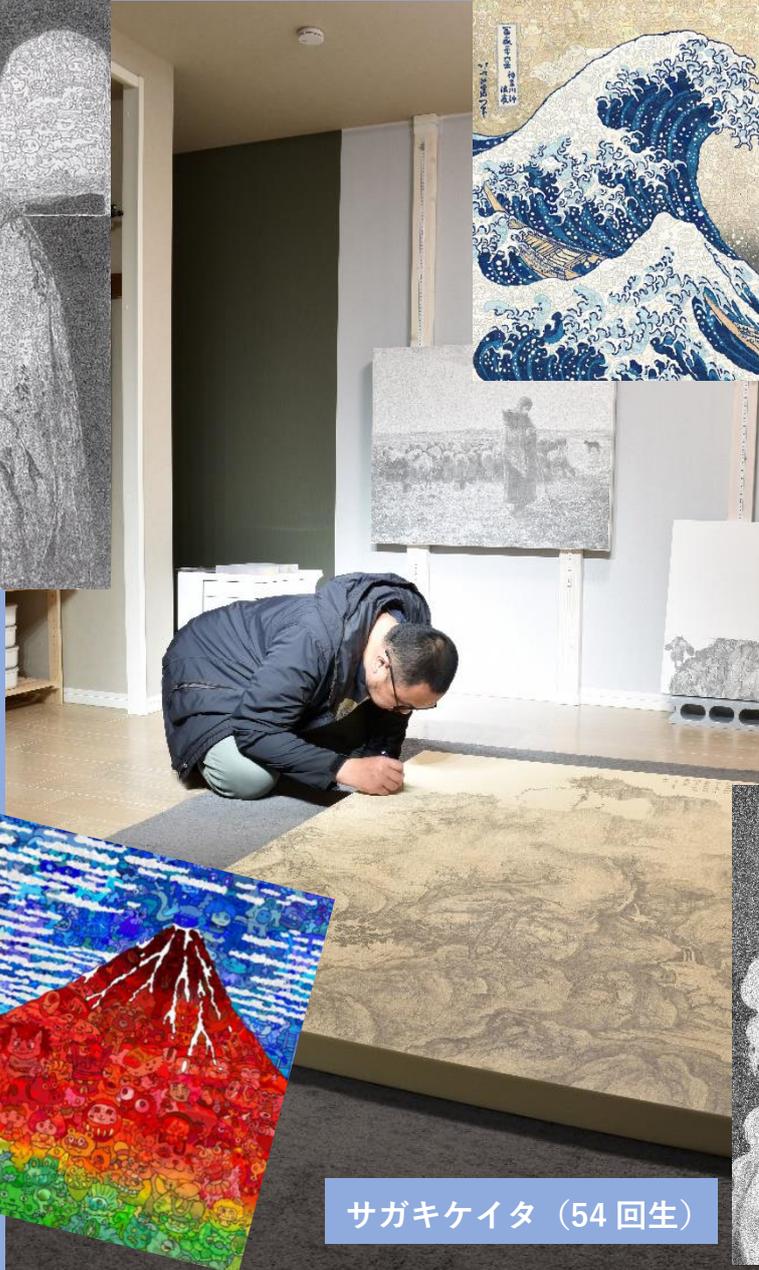
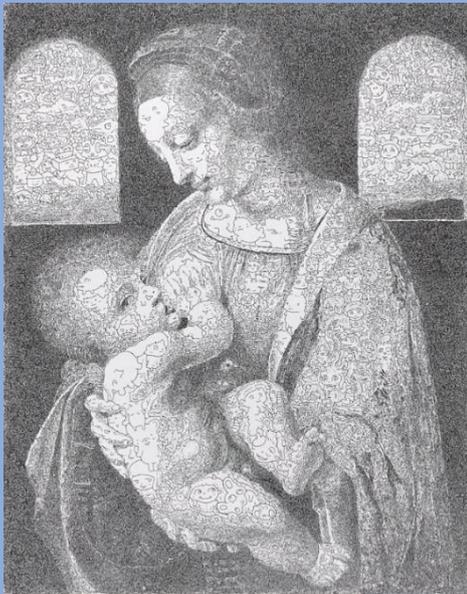


石川県立羽咋高等学校 関東同窓会会報

Kizuna

第 19 号

2024 年 6 月



サガキケイタ (54 回生)

会員ネットワーク

飛翔！活躍する同窓生

部活紹介「新聞部」



「母校、同窓生のための活動を！」 関東同窓会 会長

元：小・中・特別支援学校教諭 赤池 典充(27回生 宝達志水・上田)

昨年の総会で、第10代関東同窓会会長になった赤池典充です。

1月1日の能登半島地震で、母校は、液状化現象の影響で下水管が破損し、トイレが使用できなくなりました。そのため、3学期の始業式を遅らせ、1月の第3週から学年を分散し、オンラインを併用して授業を開始しました。本部から生徒移動の為のバス代を支援していると情報が入り、関東同窓会として同窓会本部に支援をしようと、有志で支援金を集め、2月29日に本部に支援金を送りました。

卒業式は、3月1日にコスモアイル羽咋で行いました。3月18日より校舎の2、3階のトイレが使用できるようになり、母校での授業が再開しました。地震に見舞われながら、現役生6名が旧帝大（大阪大、名古屋大、北海道大に各2名）に合格しました。後輩の頑張りを感じました。

コロナ禍の中、関東同窓会は、「ピンチをチャンスに」という考えで、役員会にZoomを導入して活動を再開し、総会・講演会・懇親会にもZoomを導入しました。また、総会の様子が中心だった会報の内容を、会員ネットワークの充実で、会員の絆を深める内容に変更をしました。

関東同窓会は「常に、時代を先取りして、『できない』『ダメ』は言わず、会員のためになることは、みんなで考えて取り組もう。失敗してもいい。失敗したら原因を考えて次に繋げる」が、役員のみなさんに浸透しています。

これからも同窓会本部と連携を取り、学校への支援を行っていくと共に、羽咋高校の同窓生でよかったと思える同窓会活動に、これからも取り組んでまいります。



「旅立ちエアリーフローラ」 本部同窓会 副会長

富士電子工業(株) 代表取締役 今井 淳一 (29回生 羽咋・大町)

7年前。何も知らないまま広報部長となり、最初に取り組んだのが同窓生全員に送付する『同窓会だより』の誌面づくりと新たに始まった「同窓会運営協力金制度」の周知でした。

今から思えば「同窓会」のあり方自体が転換期だったのでしょう。幸いなことに制度は軌道に乗り、後述する創立100周年記念事業へと繋げることができたと思います。また、この際の体験と学びは、少子化の著しい進行とそれに伴う県立高校の小規模化という母校の現状を改めて気づかせてくれました。令和5年度の在籍生徒数は455名。それでも校内の廊下などで交わす「こんにちは！」と真っ直ぐな眼差しは素敵です。こうした生徒一人ひとりの学校生活によって現在の校風が作り出されているのでしょう。

創立100周年記念の主要事業(2022)は、そんな生徒たちの学びのスタイルに合わせた図書館棟一階のリニューアル工事。私たちには無謀とも思えた事業規模でしたが、全国各地から寄せられた同窓生の皆さまのお力によって無事に完成。お披露目の際に見かけた生徒たちの弾けるような笑顔は忘れられません。

また、同事業の一つとして「杜の鐘・未来基金」を設立できたことも意義深いものがあります。能登半島地震の影響で校舎も使えなくなり、分散授業が続きました。この間の出来事は、井上校長先生に無理を言って『同窓会だよりNo.41』にご寄稿をお願いしたところです。復旧作業はこれからも続きますが、その過程で生徒の夢を育む「杜の鐘・未来基金」の活用が欠かせないことは言うまでもありません。引き続き同基金を通じた支援にご協力いただければ幸いです。

発災から二カ月。先の見えない不安を抱えての日々だったと思いますが、コスモアイル羽咋で行われた卒業式は感動的でした。そして、同窓会からは旅立ちを祝う花「エアリーフローラ」を生徒全員と担任の先生に贈りました。花言葉は『希望』ですが、その言葉通り10日ほど経った新聞に「羽咋高、旧帝大に6人」の見出し。旧帝大合格者は3年ぶりです。現役生6人の合格との事。本人たちは勿論ですが、私たちにも幸福が訪れました。

大空を仰いで知を磨こう

公立小松大学 理事長・金沢学院大学 名誉教授
前田育徳会 理事長・石川県人会 会長

石田 寛人



元 科学技術庁 事務次官
元 駐チェコ大使
元 原子力安全技術
センター会長

羽咋高校の皆さん、石川県人会会長の石田寛人です。どうかよろしくお願
いします。元日の能登半島地震は、私達の故郷に甚大な被害をもたらしまし
た。亡くなられた方々の御冥福をお祈りし、被災された皆様にお見舞いを申
し上げて、復興、復旧に微力を尽くしたいと思っております。

大地は、そして地球は、今般の地震のように、時に厳
しい一面をのぞかせますが、私達の母でもあります。こ
の宇宙の片隅に約 46 億年前に誕生した地球の上で、35
億年から 40 億年ほど前に生まれたとされる生命は、地球
と太陽の恵みと厳しさのもとで進化を重ねてきました。
私達が現在あるのは、生き物が自分の生命を守り、子孫
を残す営みを脈々と続けてきた結果に他なりません。人
間を含む生き物は、時間と空間を超えて、自分と子孫の



湯島聖堂の楷木
(昌平坂学問所があった)

生存条件を良くするように努めてきました。それは、NHKテレビの科学番
組「ダーウィンが来た」で世界各地の生き物の生態として紹介されているとおりです。

しかし、人間は単独では生きられません。そのため社会を構成し、自分のためだけでなく他人の
ためにも働くことが自分を含む全体の「ウェル・ビーイング」を拡大することを認識して、相互の関
係をルール化してきました。



国立天文台日時計

こうして私達が人類全体として生存を続け、生活をさらに豊かな
ものにしていくには、多くの経験を蓄積し、知の地平を広げていく
ことが不可欠です。私達の先人は、そのために、子供に自らの経験
を伝え、学校をつくり、教育活動を行いました。我が国でも、比叡
山延暦寺や高野山金剛峯寺は一種の大学であり、中世にも足利学校
などにおける活動があり、江戸時代には幕府の昌平坂学問所や前田
家の明倫堂など各藩の藩校が設けられ、明治期から現在まで学校制
度が整備されてきました。石川県には人口に比して多くの大学があ
り、知の継承拡大に努力を続けています。

私達の生命の継承は、知の継承によって裏付けられ、それに尽くし
た先人の力によって、今、人類はこれまでにない高みにいると思
います。人々が知識と経験を蓄積し、それを生活に生かしてきたから

です。ここにおいて、羽咋高校の立つ羽咋は、能登と加賀を結び富山県にも近く、多くの人々との
交流で、学びの機会が広がる所に位置し、日本海が西に大きく開けて、私達に深い思索を誘う星々
と宇宙を近く感じる絶好の地にあります。ここから、人間の歩みに大きく貢献したすばらしい先
人が多く出ています。今般の地震は私達に大きな苦難を与えましたが、
これを克服すれば、更なる高みに立ちうるはずです。未来を生きる皆
さん。高く広がる西の空を仰いで、宇宙と地球と生命への認識を一層
深め、知の継承と発展によって、この人間社会をさらに前進させるよ
う、力を尽くそうではありませんか。「よく生きるために知性を尊重
し学問に勤しむこと」。このことの重要性を訴えて、私のメッセージ
を締めくくらせて頂きます。



湯島聖堂の大成殿

第11回 現役部活動紹介 新聞部 顧問:山口智子先生(36回生)

この度は、関東同窓会様より執筆の機会をいただき、誠にありがとうございます。

羽咋高校新聞部は、昭和23年に創設されてから78年になる、伝統ある部活動です。私は、8年前に部活動顧問になり、地域に密着した「自分たちらしい新聞」を作ろうと、部員の奮闘を支える毎日です。現在の部員は8名です。企画会議では、積極的に自分が見たいテーマを挙げ、どのような切り口が面白いかを熱く話し合っています。

昨年創立100周年を迎えるにあたり、新聞部の歴史を調べ、先輩方が築き上げていらした歴史を知りました。羽咋高校の新聞は、行事を伝えるだけでなく、先生や生徒のメッセージが掲載されたり、羽咋高校生の意識を探る特集記事があったりと、とても個性的です。

近年の新聞は、「オピニオンリーダー」としての視点を重視し、地域の課題を探究する特集記事に重きを置いています。アンケート調査、聞き取り取材などを繰り返し、テーマを深めていくことに部員たちは楽しんで取り組んでいます。過去に扱ったテーマは、「羽咋の自然農法」、「トキの保護」、「千里浜の保全」、「羽咋の福祉」、「大伴家持の能登巡行」など、多彩です。1月に発行した第190号では、羽咋の古刹、妙成寺を特集し、文化的、歴史的価値を探究しました。また、座談会等も企画し、さまざまな立場からの意見に触れられるように工夫しています。

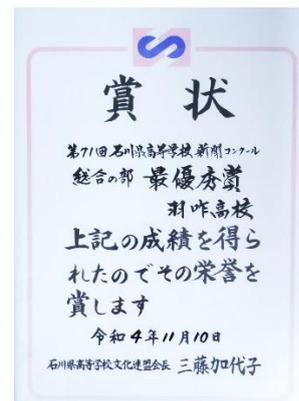
このような取り組みが認められ、令和4年度の石川県高等学校新聞コンクールでは、創部以来初となる総合の部・最優秀賞をいただきました。

今年度は、鹿児島県で開催された全国総合文化祭に部員2名が出席し、勉強する機会を得ました。全国から集まった新聞部員の新聞への熱意を感じ、さらに新聞作りに熱が入ったことは言うまでもありません。

1月1日の令和6年能登半島地震では、本校校舎が使用できなくなりました。3月11日現在で、1年生は羽咋工業高校、2年生は羽松高校の教室を借りて授業をしています。そのため、部員が集まって活動をするのが難しい状況です。Googleclassroomで情報交換をしながら、次の新聞に向け活動しています。しかし、断水が続き、今も厳しい生活をしている部員もいます。そのような中で、自分たちにできることを考えて表現していこうと、少しずつ顔を上げ始めています。

今回の地震では、同窓会、PTAの熱いご支援、ご協力をいただきました。皆様の思いを受け、活動を続けていくことができることに感謝し、今後も「自分たちらしい新聞」を作り続けたいと思っています。

最後になりましたが、関東同窓会様のこれからの益々のご発展と、会員の皆様のご多幸をお祈りしております。



「絆」で復興を「立ち上がれ！能登」看板を設置



昨年度の1、2年生全9クラスとPTAがそれぞれ文言を考え、5人の生徒がしたためました

『書』を通して

やすなか 安中
そよか 颯花（3年生）

今回の生徒会・PTAの活動は、多くを考えさせられる機会となりました。

私は、小学生のころから書道が得意で、コンクールなどに出品したりしてきました。しかし、今回の「書」では、それらの作品を書き上げる時とは違う緊張を感じ、強い思いもありました。

今回の能登半島地震では、幸いにも我が家は倒壊を免れ、断水もわずか三日間で解除されました。今なお、断水生活や避難生活を送られている方々の様子をテレビなどで拝見するたびに胸が痛くなります。私の母の職場は富来地区で、一変してしまった町の様子をよく聞かされます。また、父は穴水町や輪島市に復興支援のボランティアに数日間泊まり込みで参加していたこともあり、帰宅後の疲れ切った表情や、物思いにふける様子から、奥能登の被害の甚大さが伝わってきました。

『絆』という字を書くにあたり、その漢字の意味を調べました。「断つことのできない深い結びつき」とありました。また、『互いの「こころ」を互いに理解し合ったときに生まれるもの』とも書かれていました。この『書』を通して、私たち羽咋高校関係者一同の「こころ」が、被災された方々にも届き、本当の『絆』ができれば嬉しいです。

一日も早い復興をお祈りしています。

「命があっただけよかった...」

やち ゆず
谷内 優集（3年生）

寺院である我が家は、年末の除夜の鐘、年始の修正会のお参りで沢山の人が集まっていました。ようやく静まり返りホッとした瞬間に令和6年能登半島地震が起きました。目の前の悪夢の様な惨状を理解できないまま妹達の手を取り高台の公民館に走りました。

翌朝戻った自宅は本堂も鐘つき堂も悲惨な状況でした。皆命があっただけ良かった、とただただ思いました。

しかし2～3日は昼夜にわたり消防車と救急車のサイレンが響きわたり、これからどうなっていくのかと不安な気持ちでした。その上、真冬の寒さの中の震災の片付けと生活水の確保などの手伝い、休み明けのテスト勉強が出来ない焦り、様々な不安が入り混じった日々を過ごしました。

そんな中、8日目に『自衛隊風呂』が出来たと知らせが来ました。お湯に足を入れた瞬間の温もりは、涙が出そうな程有難く、あの感動は一生忘れられません。

今も能登は毎日皆さんの協力で復旧へと進んでいます。一日一日前向きに進めば、きっとまた能登は以前のような日々が戻ると信じたい、それらの思いを看板に託しました。



飛翔！ ～活躍する同窓生～

画家:サガキ ケイタ (佐垣慶多 54回生 羽咋・富永)



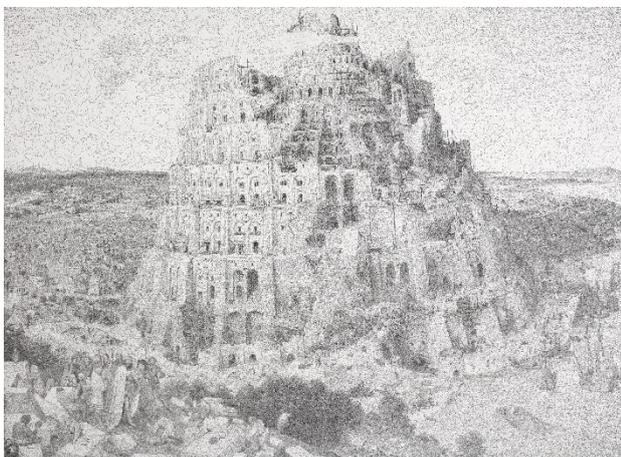
2019年 台湾での個展
(オープニングでの作品解説)

《高校時代のこと》

羽咋高校での思い出を一言で表すならば「部活動」である。小学校の頃から剣道が続けていたので、高校でも剣道部に入部した。今はどうなのか分からないけれど、在校当時(1999～2002年)は強豪校の一角として、毎日の厳しい稽古に加え、土日も遠征や練習試合など、かなりハードに活動していたと思う。私個人の実力はさておき、3年間、あの厳しい環境を耐え抜いたことは、剣道から完全に退いた現在でも、そこそこ太いバックボーンになっている。

《美術教師から専業画家へ》

子どもの時から絵を描くことが好きだったので、高校卒業後は大学で美術教育を専攻し、その後は東京都の高校で教師になった。また、それと同時期に運よく東京のギャラリーから所属のオファーがあったため、美術作家としての活動もスタートさせた。画家と美術教師、二足の草鞋生活は7年に及んだが、教員として日々10代の生徒たちと接していく内、自由奔放に生き、新しい進路へと邁進していく彼らに触発されて、やっぱり自分もあっち側でありたいという思いが強くなっていった。そうして、まだ当時は結婚3年目だった妻を説得して、教師を辞めて専業画家として生きていくことを決断した。



↓
絵を拡大すると、楽しいキャラクターがたくさんいます。



《今後の活動について》

現在は東京都内にあるスタジオで、今年秋に開催する、台湾では2度目となる個展に向けて作品を制作中である。これまで、台湾以外でも、ドイツや香港などの海外で個展を開催してきた。その度に、言葉も文化も異なる様々な人たちが、私の絵を観て驚いたり、何かを感じたり、また、実際に絵を購入してくれたりした。このことは、本当に何ものにも代え難い体験であり、画家として生きる道を選んでよかったと思える瞬間でもあった。

初めてクラス担任として受け持った生徒たちに、卒業式の日ホームルームで『学生時代が一番よかった』とか『あの頃が一番楽しかった』と思うような大人になるな。いつでも『今が一番充実していて楽しい!』と思えるように人生を歩んでいけと偉そうに言ったのだけれど、あれは多分、自分自身に対して言った言葉だったと思う。現在40歳、なんとか、あの時の言葉は有言実行できている。

サガキケイタオフィシャルサイト→



飛翔！ ～活躍する同窓生～

フリーアナウンサー：浅野 夏実 (63 回生 羽咋・東的場)

皆さまこんにちは！フリーアナウンサーの浅野夏実と申します。この度は、このような寄稿の機会をいただき、大変うれしく思います。そして、能登半島地震で被災された皆さまに、心よりお見舞い申し上げます。羽咋高校も校舎が使えなくなり大変な状況で授業を受けていたと伺いました。そんな中でも団結して逆境を乗り越えた母校を、改めて誇らしく思います。今回は羽咋高校の卒業生として、高校時代のことやアナウンサーの仕事などについて綴らせていただきます。

■自己紹介

私は、羽咋幼稚園、羽咋小学校、羽咋中学校、羽咋高校と、学生時代のほとんどを羽咋で過ごした生粋の羽咋っ子です！アナウンサーとしては、NHK岐阜放送局で夕方のニュース情報番組のキャスターなどを担当した後、現在は関東を中心にBS日テレのビジネス番組や司会、リポーターなど幅広く活動しています。夢だった職業に就いて日々楽しく活動できているのは、羽咋高校での日々があったからだと確信しています。



■高校での経験がアナウンサーの仕事に



勉強はもちろんのこと、伝統のマラソン大会や部活動など、さまざまな活動に力を注げる環境があることも、羽咋高校の生徒でよかったと感じることの一つです。千葉テレビの朝の情報番組でキャスターを担当していた際は、千里浜でのマラソン大会での経験を話すことができたり、ハーフマラソン出場企画では、帰郷して、練習のために千里浜で走る姿を放送したりしたこともありました。さらに、高校で打ち込んだバスケットボール部での経験も今の仕事につながっています。日本中でバスケット熱が高まる中で、男子バスケのBリーグや女子バスケのWリーグでリポーターや実況を担当しました。

アナウンサーの仕事は、放送以外にも多くの準備時間がかかったり、本番直前はいつも心臓がバクバクしたりと大変なこともありますが、それ以上に、自分の好きなことを生かすことができたり、たくさんの人や物に出会えたりと、やりがいや喜びを感じる瞬間がたくさんあります。羽咋高校生には、ぜひ目の前のことに夢中になって、自分の好きなことを仕事にしてほしいです。

■羽咋高校創立100周年記念で母校へ

創立100周年の年には、記念式典と祝賀会で司会を務めさせていただきました。節目となるかけがえない時間を羽咋高校生や同窓会の方々と共有することができ、とてもうれしかったです。

卒業から12年ぶりに訪れた母校は、制服がリニューアルされていたり、新しいホールができていたりと変わったところもありましたが、私がいた頃と全く変わらないアットホームな雰囲気や、気さくな先生方、礼儀正しくまっすぐな生徒たちを見て、懐かしく感じるとともに、羽咋高校の卒業生だということに自信を持って、これからも頑張っていきたいと思いました。

羽咋高校や地元羽咋の皆さまとまたご一緒できる機会を楽しみにしています。お仕事のご依頼などがあれば、ぜひお声がけください！



令和5年度

羽咋高校関東同窓会 総会・講演会・懇親会

令和5年9月23日(土)

アルカディア市ヶ谷(私学会館)

令和5年度は、ご来賓の方、ニューヨーク、ロサンゼルス在住の方、初めての参加者、Zoom参加者を含め約100人が参加した。

総会では、物故者への黙祷をした後、赤池清会長が「在京の他高校の同窓会、石川県人会との交流を推進し、同窓会に取り入れられることは積極的に取り入れ、母校の発展に寄与したい」と挨拶し、轟千栄子同窓会本部長、井上政人校長が母校の現状取り組みを紹介した。令和4年度の事業報告の後、令和5・6年度の役員改選が承認され、新会長に赤池典充氏が選出され、「前会長の『ダメだ。できない』は言わない。とにかくやってみる。やって出来なかったら、原因を考え改善して取り組むことが、会の発展に繋がる。を継承していく。」と挨拶した。

講演会では、松永秀和氏が「ヒマラヤに咲く青いケシ」と題して、2013年から探索に訪れ、撮影した青いケシの花々を紹介し「過酷な環境で生存する青いケシはいわば『炭鉱のカナリア』。無くなることは環境が瀕死の状態であることを意味する」と話した。



轟同窓会本部長と
関東同窓会赤池会長

懇親会では、鳥毛茂則氏が開会の辞を、岸博一羽咋市長、寶達典久宝達志水町長が祝辞を述べた。山上徹相談役の乾杯の発声で、楽しい会話が会場中に広がり、盛り上がった。

最後に、折口信夫氏が作詞した羽咋・二水・大聖寺高校の校歌が「校歌三兄弟」として、披露され、全員で校歌と応援歌を大合唱した。

二次会は、38人が参加し、さらに親交を深め合った。



初めて参加された12名のみなさん!



宮寄先生と教え子のみなさん!



令和5・6年度 役員 改選		令和5年9月23日より2年間		★:新規
名誉会長	倉部行雄 (中18)			
会長	★赤池典充 (高27)			
副会長	大崎繁一 (高21)	山川富雄 (高25)	和田智恵 (高26)	森村睦子 (高26)
	發田 朗 (高30)	北嶋克悦 (高31)	永島和人 (高32)	★松波久美子 (高32)
	川村洋子 (高39)	★松本 宝 (高39)		
相談役	西井信夫 (高2)	治郎堂實 (高7)	岡野 勉 (高9)	土田米蔵 (高10)
	井上 猛 (高12)	山上 徹 (高14)	本多群司 (高16)	犬塚清美 (高19)
	轟 暁子 (高20)	★赤池 清 (高20)	★中村洋行 (高20)	
顧問	中島正治 (高4)	大矢昭雄 (高10)	本吉昭子 (高14)	杉浦節美 (高22)
	小林美紀 (高25)	河合洋嗣人 (高36)		
理事	南 雄二 (高20)	有川雪子 (高20)	渡 憲次 (高21)	竹川利一 (高22)
	★中村頼蘭 (高25)	木村琴美 (高26)	笹川道博 (高28)	中森亮政 (高34)
	塩谷毅志 (高36)	吉田充基 (高36)	須田雅之 (高41)	森 圭吾 (高49)
	★河端将司 (高54)	上田 寛 (高55)	★白井悠太 (高68)	
監査	宝田良正 (高16)	竹川利一 (高22)		
事務局	★發田 朗 (高30)	北嶋克悦 (高31)	塩谷毅志 (高36)	
会計	南 雄二 (高20)	木村琴美 (高26)		
地元世話役	瀬戸公英 (高20)			
		退任者	相談役: 藤岡玲子 (高7)	



講演会 演題「ヒマラヤに咲く青いケシ」

講演者 株式会社 インサイト/サーチ 代表

松永 秀和(19回生)宝達志水・敷浪

高校生時代に白山に登ったが、本格的に山に登るようになったのは還暦を過ぎてからだ。高山の花々と出会い、その可憐さと強靭さの虜になった。花に惹かれて百名山を巡るうち日本の高山植物を見尽くした感にとられる。そんな折、ヒマラヤの青いケシを紹介した本に出会う。雪山を背景に凜と咲く青いケシの姿に心打たれた。著者の主催する青いケシ研究会に参加。2013年6月から1カ月半、中国四川省を調査で訪ね、3種の新種を含む10種の青いケシを観察した。以降、2020-2021年のコロナ禍期間を除き、毎年、インドやネパール、ブータン、中国と青いケシが自生するヒマラヤの国々を訪ねてきた。約100種あるとされる青いケシのうち、亜種、変種を含め、これまでに80種を見ることができた。

青いケシとは、ケシ科メコノプシス属の植物の俗称である。ヒマラヤ山脈と中国横断山脈の周辺で標高3,500m以上の地域に分布する。メコノプシス属の特徴は、他のケシ科の植物と果実(蒴果)の形が異なり、柱頭が突き出ていること。また、多くは葉や茎に毛や棘が生えている。メコノプシス属は4グループ(亜属)に分けられる。一つは高さが1m以上になる大型種でネパール中西部に多く見られる。2番目のグループは中型でネパール東部やブータン、横断山脈で見られる。3番目は柱頭が円盤状になったグループでヒマラヤ山脈に広く分布する。4番目は小型種で毛が薄く、中国で多く見られる。



メコノプシス属の先祖は赤道付近の温暖な古代テチス海の沿岸部に生育していた。5,500万年前、インド亜大陸がユーラシア大陸に衝突し、テチス海は陸となり、そして隆起した。メコノプシス属も隆起に合わせ、高度順応していった。そして氷河期には谷に下ることで隔離され、多様化した。メコノプシス属が自生する高山は寒冷、乾燥、強風、強紫外線の過酷な環境だが、大柄できらびやかな花をつけるのは虫を誘引し花粉を運ばせる生存戦略のためでもある。花の色も青色以外に、紫、黄色、赤、白、ピンクと多彩だ。

メコノプシス属の発見と園芸化は帝国主義と密接に結びついている。インドを支配した英国は、支配地の資源を搾取するため全土を詳細に調べ、植物を採集し、本国に標本を送った。その中に、最初に紹介されたメコノプシス(Mと略)・ナパウレンシスがあった。その後もM・アクレアータやM・ホリデュラなどが次々ともたらされる。フランスも19世紀末に中国奥地へ宣教師を送りこみ、植物採集を行なっている。こうして紹介された花は実用的な価値はなかったものの、その綺麗さから英国園芸界に大きなインパクトを与えた。種苗商はこぞってプラントハンターを送り込んで種子を集めた。英国の気候とも合ってよく発芽し、今ではイングリッシュガーデンに欠かせない品種となった。メコノプシス属自体も人の手を介して新たな生息地を得たが、それはこの種が環境変化に順応できる力を持っていたからだ。



「体操部の集まり」 松田 外喜男（9 回生 羽咋・吉崎）
会場：ルートイングランディア氷見 日時：2023.7.23（木）



第 28 回(昭和 51 年 3 月卒)、第 29 回生卒業生の集まりに参加できて、本当に楽しかった。

池田君は、かほく市、市議会議員で地域の代弁者として活躍中。北口君は、金丸体育館で小学生 40 人を指導する主任を務め。北野君は、羽咋市トランポリンの指導者。今回、久しぶりに会ったのは、さいたま公立高校で頑張った木津君である。現在、再任用の身で女子高校体操部指導者。久保君は、宝達志水町子浦で町のボランティアとして悠々自適の生活。芝田君は、これら体操部員の

面々が最も知る仲良しグループで特別参加。本人、高3の時、最も早く東亜さく泉工業(株)を選んだ一人であった事をよく憶えている。

みんな学校を巣立って、50 年近い年月が経っているが、それぞれ好きな道で頑張っていることが最も嬉しかった。中でもよく見る金丸小学校体育館で 40 人を指導する北口君、土・日の午後、指導しているのが驚きである。特に体操施設の充実が凄い。皆さんも一度、訪ねて見てやってください。

私は 86 歳、散歩、時々道路の草取りボランティア中。今年の元旦早朝は、ウォーキングを兼ねて、市役所～母校間の道路の草取り、午後は羽高の屋外トイレの清掃…。終わって自転車置き場の所で 4 時 10 分頃、能登地震に直撃！校庭が波のように動き、恐怖を感じた。

最後に、私を深夜自宅まで届けていただいた村田校長さんの娘さんに心よりお礼を申し上げます。

「卒業プレ 50 周年記念同窓会（26 回生）」
会場：ホテル金沢 日時：2023.10.14（土）



2023 年 10 月 14 日（土）、『ホテル金沢』に 26 回生 76 名が集いました。先ず物故者への黙とうから始まり、次に同期生で元羽咋高校校長の上杉直人さんから母校の近況について説明があった後、代表幹事の疋島寛さんによる乾杯の音頭と共に和やかな同窓会がスタートしました。会場では半世紀ぶり見る何人かの懐かしいお顔もあり、感激もひとしおでした。

現在、米国在住の辻孝子（旧姓：町駒）さんも Zoom でオンライン参加してください、太平洋をまたいでの同窓会となりました。また、20 回生の南さんに編集していただいた 26 回生の卒業アルバムのスライドショーを上映すると、全員の心が一気に高校時代のあの頃に舞い戻り、どなたも歓声に沸きながら盛り上がりました。

最後は参加者全員で折口信夫先生作詞の校歌斉唱で会を締めくくりました。当時は何気なく歌っていた校歌でしたが、その格調高い詞の美しさに、改めて感じ入ることが出来る、そんな同窓会となりました。

（文責：和田智恵）



会員ネットワーク

近況報告をして頂き、次の人にリレーすることで、会いたい人 知りたい友の消息など 会員の交流促進に役立てたいと思います。



我が道を歩む

松島 昌幸 (16回生) 羽咋・旭

私は昭和 39 年 3 月に羽咋高校を卒業しました。この年の 10 月 1 日に東海道新幹線が開業し、そして 10 月 10 日には東京オリンピックが開催されました。私はこの時千駄ヶ谷の国立競技場から、開会式でのジェット機による素晴らしい五輪マークを感激しながら眺めていました。

前年の昭和 38 年、石川県地方は 38 豪雪に見舞われ、私達市内の在校生はそれぞれスコップを持って、グラウンドから消防車が校舎近くまで入れるように除雪しました。大変な作業で、グラウンドにある鉄棒の一番高い部分が少しだけ顔を出してました、おそらく積雪は 2m 程あったと思われます。今となっては、とても懐かしい思い出です。また、部活では陸上部に入り、走り幅跳び県大会で優勝し、北信越大会では惜しくも2位となりましたが、インターハイに出場しました。

高校卒業して、東京で4年間の学生生活を送り、その後京都国際ホテルフロント係に就職し、そこでドルショックでアメリカ人観光客が、1ドル 360 円だったものが 300 円程に大暴落し、慌てふためく姿を見、今後の円・ドルの為替相場がどうなるのか心配しながら、フロント会計業務を行ってました。そんな中でも、1969年にアポロ計画で、宇宙飛行士が月面に降り立った姿を、歓声をあげながらロビーのテレビ中継で見ていたアメリカ人達の姿も、また忘れられません。そして、70年の大阪万博では、海外からの多くのお客さんが楽しむ姿を見ながら仕事をしてました。

約5年間のホテル勤務を経て羽咋に帰り、父が経営する会社で定年まで過ごし、その間羽咋ロータリークラブ会長や羽咋青年会議所理事長など色々な役職を経験し、羽咋市文化財保護審議会の会長も経験、特に今は、石川県や羽咋市が中心となり運動している、市内滝谷町の五重の塔で有名な妙成寺の国宝化に向け、一生懸命に運動している毎日です。また羽咋市内には有名な七基の古墳が点在し、羽咋七塚としても大切に守って行かなければならない場所で、次の世代の活動に期待しています。



ふるさとは 遠くにありて

団体役員 澤田 (松沼) 俊史 (21回生) 宝達志水・敷波

校舎が、地震による液状化の被害をうけたとの報に接して、心を痛めています。在校生は、近隣の高校に分かれて登校していると聞きました。私は、羽高旧校舎の生徒会室横の松の木を松葉を過ぎる浜風の音と匂いを、今でもしっかりと思い出出すことができます。

東京に住んで 50 年を超えました。首都直下型大地震が予測されて久しいですが、いま東京は高さ 100 メートルを超える超高層のビル、マンションの建設ラッシュで、まるで地震の心配のない国のような錯覚にとられる有様です。ヨーロッパの都市は、歴史的建造物を大切にしている、都市の景観を大事にしていると聞きますが、文化レベルの違いというより、何を大切にしているかの違いと思わざるをえません。東京では、大地震にみまわれると、道路は地下鉄の陥没の穴だらけで歩けなくなり、外に出るとビルの上からガラスのシャワーが落ちてくる、となればとても生きたここちがない状態に。人が生き、普通に生活できる社会になって欲しいと思わざるをえません。

古代の八世紀に編纂された万葉集に、「羽咋」という文字が2か所出ています。一つは、越中の守・大伴家持が能登「気多神社に赴き参り、海辺を行きし時作れる」と、「之乎路(しおじ)から 直(ただ) 超え来れば 羽咋の海 朝なざしたり船舵もがも」(4025)。いまひとつは、「羽咋郡の擬主帳能登臣乙美(のとおみおとみ)作れる」と、「明日よりは 継ぎて聞えむ ほととぎす一夜のからに 恋ひ渡るかも」(4069)。羽高応援歌の——古き能登に生い立ち♪の伝統ある言葉を思い出します。

恥ずかしながら、住んでいる東京都杉並区荻窪という地で、10 年以上私は、俳句の句会に顔をだしています。昨年新聞の俳壇に「春浅し 七尾の土間の 和蠟燭(わろうそく)」という駄句を投句させていただき、今年元旦の地震のあと、「あんなこと こんなことあり 氷見の鰯」をつくりました。

私は、いま 70 才をすぎ、望郷の念など抱くまいと思います。しかし、「ふるさとは 遠くにありて思ふもの そして悲しく、うたふもの」(室生犀星)の言葉をかみしめて、筆を置きます。



高校通学の思い出

フリー編集者 新田 牧代 (25 回生) 志賀・大島

私が高校3年の時まで家のすぐ横を走っていた北陸鉄道能登線は、羽咋高校への通学手段だった。家から近い大島駅から羽咋駅まで 30 分。朝はぎゅうぎゅう詰めで立つしかないが、帰りには柴垣海岸のカーブした線路沿いにぐるっと水平線が見渡せた。海面に映るオレンジ色の夕日は、鮮やかでまぶしいくらいだった。松林の中を駆け抜ける時は、海側から吹きつける涼しい浜風に居眠りを誘われた。

寝坊しがちな年代なのと、受験勉強しながら深夜放送を聞いていたこともあり、乗り遅れそうになったことが度々。ある時、家の横を走る気動車のガタゴト音を聞いた後、すぐ追いかけるように線路伝いに走って駅へ。女の車掌さんが、すでに大島駅に到着した車両の窓から体を乗り出し待っていてくれた。線路脇を走る私を走行中の車両からしっかり見ていたのだろう。

そして、高校 3 年の 6 月に能登線はついに廃線となり、バス通学に切り替わった。

何十年もの間、能登線で通学していた生徒は何千人にもなるだろう。青春時代の悩みや希望、思いをそれぞれ抱えて乗っていたに違いない。若者たちを支えてくれた能登線の元職員の皆さん。今年で廃線から 50 年だが、高校時代の思い出そのものです。皆の心に今でも生きています。

(北陸中日新聞提供、令和4年9月1日朝刊掲載。)

追記

北鉄能登線の廃線後、石川県が跡地を買い取り自転車専用道に整備。その後、(株)モンベルが全国で推進する「ジャパンエコトラック」の公式ルートに組み込まれている。車道と分離されているので、海沿いの景色を眺めながらサイクリングが楽しめる。

写真は、路面に「羽咋・巖門 里山ルート」「羽咋駅から 15 km」と書かれたアスファルト道路。他の 1 枚は自転車道路から眺めた日本海の夕日(高浜、長沢付近)。



今できること、「一步前進」

元 石川県教育委員会いしかわ師範塾 主任指導主事

元 石川県立飯田高等学校 校長 三嶋 達也 (27 回生) 羽咋・一の宮

今年元旦の朝を迎え、心を新たにした日に能登半島地震が発災しました。私の初任は輪島高校、その後母校の羽咋高校に勤務し 16 年。羽咋高校での仕事はとてやりがいが大きく、私の人生の中で一番輝いていた時間でした。担任をずっとさせてもらい、教え子たちには「がんばる人は美しい」という言葉をずっと言い続けていました。途中、上越教育大学大学院にも内地留学をさせていただきました。羽咋高校に戻り、3 年学年主任や進路指導主事を経験できたのは本当にありがたかったです。

その後ライバル校(?)七尾高校に勤務。それから教頭の役割をいただき、富来高校、門前高校を経て、田鶴浜高校の校長を拝命しました。門前では一つ先輩の上杉直人先生が校長でした。上杉先生には本当にお世話になり、学校経営の基本を教えてくださいました。田鶴浜高校での思い出はたくさんありますが、校長としての役割の重さを痛感しました。そして最後は飯田高校の校長、単身赴任の 2 年間でした。「チーム飯田で一步前進」が私の繰り返した言葉です。私のこれまでの経験を踏まえ、総決算の高校でした。振り返ると、私の教員としての職場はすべて能登でした。

現在も、かつての同僚や教え子、知り合いが今回の地震で大きな被害を受けているので、胸が痛み言葉になりません。しかし、私に今できることは、非常勤で勤務しているいしかわ師範塾の塾生たちに精一杯寄り添い、教師になるためのお手伝いをさせてもらうことです。塾生たちとともに自分自身が「一步前進」を果たしたいと思っています。

最後になりますが、羽咋高等学校関東同窓会の益々のご発展を心より祈念申し上げます。





イタリア北部チンクエ・テツレ

魂の故郷

藤原 仁美 (32 回生) かほく市・高松

夫の仕事の関係から、長らく海外生活を経験しました。中南米、東南アジアの国々を巡り、最後の滞在はイタリアのローマでした。本帰国は 2006 年。その後はずっと日本、東京在住です。

イタリアと言えば先進国のイメージですが、私の滞在したローマは美しい街ですが、それまで滞在した発展途上国の国々と、さほど違いは感じられないくらい、インフラなどが遅れていました。しかもスリやひったくりも多く、大きなゴミ箱があちこちにあるにも関わらず、外を歩けばゴミだらけでした。大した努力をせずとも、ローマ帝国の歴史に憧れる観光客は絶えないので、そのことに、市民が甘えているように思いました。

本帰国後、日本ではゴミ箱が歩道や駅のどこにも見当たらないのに、ゴミが全く落ちていないことに驚きました。誰に強制されなくても、公共の場を綺麗にする。これは、日本人の精神の故郷からの流れなのでしょうか。

海の近くで、海の向こうを見ながら育ったためか、私は子供の頃から外国文学、海外生活に憧れていました。金沢出身の詩人室生犀星のように、『ふるさは遠きにありて思うもの そして悲しくうたうもの』だと思いついていました。ところが、2024 年1月1月に能登で起こった大震災。この悲劇が、私を一気に自分の原点に引き戻しました。心臓が鼓動するたびに、故郷は共に鼓動していたのだと気づきました。育ててくれた大地、見つめていた海、空。たとえ体はそこから離れていたとしても、心は繋がっていたのだと実感しました。

カトリック教会のカリタスを通じて、3月初めに七尾へ炊き出しのお手伝いに行きました。吹雪の日でしたが、長い熱帯暮らしの寒がりの私が、屋外での活動に寒さをさほど感じることなく、お手伝いをすることができました。修道院のシスター達からお預かりしていた手作りクッキーとマリア様のお守りも、沢山の被災者の方々にお渡しすることができました。また、時間と機会を作り戻りたいと思います。

私たちは、どこに行こうとどこに住もうと、現実世界で何が起こったとしても、故郷の大地、空、海は、私たちを温かく包む母なのだとして強く感じています。



能登半島地震と近況報告と

大阪公立大学 理学研究科
数学専攻 教授

尾角 正人 (32 回生) 羽咋・千里浜

1980 年の大学受験に失敗し、予備校に通うために東京へ出てから、大学院進学、大学への就職などで京都、大阪と転々として、現在、大阪府東大阪市に妻と二人で住んでいます。最寄りの駅は近鉄奈良線瓢箪山駅で、近くにラグビーの聖地、花園ラグビー場があります。職業は大学教員で大阪公立大学理学研究科数学専攻に所属して、日々数学の研究、教育に勤めています。

この原稿を書いているのは 2024 年 3 月 31 日ですが、今年度は自身が所属する日本数学会の 2024 年度年会(3 月 17 日～3 月 20 日)の実行委員長を務めるという稀有な経験をしました。写真はそのときの立看といっしょに撮ったものです。実行委員長に選ばれたのは、学会が行われる杉本キャンパスで最年長数学教授だという理由からですが、1,000 人を超える参加者がある大会運営はやはり大変なものでした。大学は1月、2月が期末試験、卒業研究・修士論文発表会、入試等で忙しい時期ですが、それに加えての学会準備で、正月を迎えてから土日祝日もなく働いた気がします。この忙しさの中で風邪もひかず、体調も崩さずやってこれたのは、栄養を考えた食事を作ってくれる妻のお蔭と改めて感謝しています。

能登半島地震が起きてからちょうど3か月になろうとしていますが、皆様のご家族、ご実家はいかがだったでしょうか。私は大阪の自宅の2階にいたのですが、和歌山か奈良が震源かと思っていたところ、奥能登とニュースで知って驚きました。幸い羽咋にいる母や妹家族に怪我はありませんでしたが、断水が続いたり、実家や妹家族の家ともに外壁が損傷したりと大変でした。

羽咋高校も3学期は校舎が使えず、学年ごとに別々の場所で授業をしていると聞きましたが、新学期からはどうなのでしょう。私は 1995 年の阪神大震災を当時豊中市に住んでいて経験しました。自宅アパートに住めなくなり、1 週間ほど大学の研究室に寝泊まりしました。そのときに、普段の生活というもの多くの人目に見えない努力によって支えられている、ということを実感しました。今回の学会運営でも、誰かがやらないといけない大切な仕事だと肝に銘じていたからこそ、最後まで頑張れたのだと思います。この文章は高校生や若い同窓生の皆さんも目にするかもしれません。災害の体験は確かにつらいものですが、将来につながるものだと信じて乗り切ってくれるよう応援しています。



後輩達に伝えたいこと

株式会社島津製作所 医用機器事業部サービス統括部
マネージャー 池島 徹彦 (高 32) 中能登・高島

私は、羽咋高校を昭和 58 年に卒業した後、金沢大学工学部に進み、大学卒業後は京都の株式会社島津製作所に入社し、37 年間製造部門で生産管理業務を行ってまいりました。

還暦直前のこの年になると、残りの人生であとは何をやろうかと考えるようになり、私は、これまでお世話になった方々に恩返しをしたいと考えています。そのため、3年前から金沢大学OB会関西支部の世話役をさせて頂いたり、昨年は羽咋高校OB会関西支部の総会にも初めて参加いたしました。おそらく、これをきっかけに羽咋高校OB会の運営にも協力をさせて頂くことになると思っています。

でも、私が恩返しとして一番したいと考えていることは、私が 37 年間仕事を通して経験してきたことを母校の生徒たちに伝えたいということです。昨年、そのようなことを考えるようになり、少しずつその取り組みを開始しています。「学校と会社の違い」「会社で活躍していくために大切なこと」など、自分の経験を織り交ぜながらお話しします。Z世代の方は、我々昭和時代とは違い、大学でも非常にまじめに勉強され、人前でも上手に話せるなど、「学校では優秀」な方が多いのですが、会社に入ってから活躍できない方も多く見てきました。学校では優秀なのですが、会社で活躍できる人とそうでない人の違いは一体何なのか。そういうお話を、子供たちにすることで、少しでも参考にして頂けたらと考えています。

これまで、地域の小学生や中学生に、そのようなお話を何度かしてきましたが、今年5月に、金沢大学でもこのようなお話をすることになりました。学生時代の成績がクラスで最下位だった私が、学生に講演をするなんて、非常に恐縮していますが、大学の先生とは違う目線で、お話をしたいと思っています。「コミュニケーション能力の大切さ」「挑戦することの大切さ」「すぐに行動する大切さ」などです。

子供たちが社会に出て活躍できる人になれるように、社会で経験してきたことを、私たち大人が伝えることは、意味のある教育だと思いますので、こういう取り組みが普及していけばいいと考えています。



エーデルワイス

合唱部の思い出

笠置 (井上) 園委 (41 回生) 羽咋・円井

自分の高校生活を振り返って真っ先に思い出すのは合唱部のことです。

入学早々、部の顧問の川端堅也先生の強力な勧誘に、半ば押し切られる形で入部することとなりました。当時の部員は 20 人弱。先輩はわずか 3 名で、私を含め新入部員が大多数を占めていました。女声 3 部合唱のメゾソプラノを担当したのですが、もともと声がよく通るタイプではなかったため、当初は発声に苦労しました。先生が美しく響く声の出し方を丁寧に教えてくださり、皆で発声練習に熱心に励んだのをよく思い出します。その甲斐あって、1 年生の夏には名古屋で開催された NHK 合唱コンクールのブロック大会に県代表として出場し、審査員の先生から「少人数ながらきれいな歌声です」という評価をいただくことができました。

その後、1 年生と 2 年生の 12 月には「交響曲第 9 番」の演奏に部員全員で参加しました。緊張もあったのか、高いひな壇の上段で思わずふらつきそうになりましたが、オーケストラと合唱団の迫力に深く心打たれ、「合唱部に入って本当によかった」と実感しました。

定期演奏会も印象に残っています。2 年生の時には『サウンド・オブ・ミュージック』を上演。私は主人公であるトラップ一家の次男に扮して、『ドレミの歌』や『エーデルワイス』などを振り付きで歌いました。翌年は『ウエスト・サイド・ストーリー』の『トゥナイト』などの代表曲を、女性役と男性役に分かれて合唱しました。部員同士非常に仲が良く、毎日楽しく過ごしているうちに引退の時期を迎えてしまいました。

現在の羽咋高校には合唱部はなく、少し残念で寂しいですが、これも時代の流れかもしれません。在校生の皆さんには学校生活で何か夢中になれることを見つけ、一生の思い出となる青春時代を送ってほしいと思います。



バスケットボール人気とスポーツの存在意義

元：バスケットボール日本代表

現：Bリーグ川崎ブレイブサンダース
ゼネラルマネージャー

北 卓也（43回生）羽咋・新保

私はジャパン・プロフェッショナル・バスケットボールリーグ（称呼：Bリーグ）の川崎ブレイブサンダースに所属しており、ゼネラルマネージャーとして働いております。

Bリーグは2016年10月に開幕しました。NBPのプロ野球、Jリーグのサッカーに次ぐ第3のプロリーグとして誕生し、現在8シーズン目に突入しています。Bリーグ以前は、決して人気スポーツではありませんでしたが、Bリーグが誕生してから、いくつかの要素はありますが、人気スポーツになりつつあります。一番大きいのは、日本代表が強くなったことが挙げられます。女子は、記憶にある方はたくさんいると思いますが、2021年に開催された東京オリンピックで銀メダルを獲得して注目を集めました。男子は、昨夏8月に開催されたW杯で予選突破をして、今夏に開催されるパリオリンピック出場を決めました。男子日本代表の自力での出場は1976年モントリオール五輪以来の48年ぶりになります。強くなると注目されるようになり、メディアに取り上げられることが多くなりました。今では地上波での試合中継もあるので、バスケットボールを見たことがなかった方々の目に触れる機会も多くなってきたように思います。その中継を見て日本代表選手のプレーが見たいと、Bリーグに観戦に行こうと波及効果にもなっています。

そして昨今は、SNSの普及により若い世代の方々が、観戦に訪れる割合が増加しています。各クラブが選手を使って発信するYouTubeやXやTikTokを見て、選手のプレーが見てみたいと来場することが多いようです。

一方、スポーツはエンターテインメントとして観客の皆さんに非日常を体験させることが、スポーツの価値に繋がると思います。本来、スポーツの存在意義としては、士気高揚や一体感の醸成、地域振興や社会貢献などが挙げられます。プロフェッショナルは、勝敗という結果が全ての世界ではありますが、自分たちの言動で、みなさんに元気や勇気を与えて、人の心を動かすことができるのです。それが困難な状況を打破できることにも繋がると思うのです。

今年の1月1日に能登半島地震が発生し、多くの方々が被災されました。スポーツの存在意義として、バスケットボールの力で、地元羽咋市や能登の皆様に対して、何か力になれることはないかを考えていきたいと思っています。



マイビジョン

三井不動産株式会社 河合 恵（68回生）羽咋・東川原

私は羽咋小学校、羽咋中学校および羽咋高校を卒業後、宮城県仙台市の大学に進学し、その後は東京都で就職しています。18年間暮らした羽咋を離れてから約8年になりますが、毎年のように帰省をしています。幼少期を過ごしたふるさと羽咋は私にとってかけがえのないものであり、羽咋で過ごすひとは大切な時間となっています。

今回はお声がけをいただき、このコーナーへ寄稿いたしました。最初はどのようなことを書くか迷いましたが、私の将来のビジョンについて綴ることにしました。拙い文章かと存じますが、あたたかい目でみていただけますと幸いです。

私は現在、「再開発を通じたまちづくり」に励んでいます。正直、学生時代までは将来のやりたいことがあまり明確ではありませんでしたが、就職活動をきっかけに自分自身の“これまで”と“これから”に深く向き合いました。約1年間頭の整理と情報収集を行った結果、「周囲の方々を巻き込みながら、世の中に新たな価値を創造したい」という想いに至りました。この想いを実現する手段として不動産デベロッパー業界を選択し、「再開発を通じたまちづくり」というフィールドに飛び込みました。日常の業務では、各地域におけるまちづくりの最適解検討や合意形成の難しさ等について日々頭を悩まされていますが、周囲の方々とともに再開発を実現して世の中に新たな価値を創造したいという想いを胸に奮闘しています。

現在は東京でのまちづくりに取り組んでいますが、将来的にはふるさと羽咋でもまちづくりに貢献したいと考えています。東京でもかなり認知が進んでいる「千里浜なぎさドライブウェイ」や「川渡し」をはじめとする豊富な文化資源等、魅力的なコンテンツが羽咋にはあると思っています。羽咋の良さを“残しながら”も、未来にむけて新たに“創っていく”ことが大切のように感じています。いつかふるさと羽咋の地で、皆様とともにまちづくりに携わることができると幸いです。



一隅を照らせる人に 会社員 駒井 悠乃 (69 回生) 羽咋・柳田

令和 6 年能登半島地震で被災された皆様に心よりお見舞い申し上げます。羽咋市にある私の実家と家族は幸いにも皆無事でしたが、液状化現象の被害を受けた母校をはじめ、被災して変わり果てた故郷の姿を報道等で目にして心が痛む思いです。離れた場所からにはなりますが、能登の一日も早い復旧・復興を願っております。

2017 年 3 月に羽咋高校を卒業し、早 7 年が経ちました。高校時代は弓道部に所属し、心から尊敬出来る仲間達と共に楽しく、時には厳しく弓道に明け暮れる日々を過ごしました。その後、大学進学を機に地元を離れ、現在は仕事の関係で暮らす山梨県にてこの原稿を書いています。簡単ですが私の自己紹介はここまでにして本題に入ります。

大学時代にお世話になった方から教えて頂き、以来自分の中で大切にしている「一隅を照らす、これすなわち国宝なり」という言葉があります。天台宗の開祖・最澄の言葉であり、「一人ひとりが自分のいる場所で、精一杯努力し自らが光となり周りを照らしていくことが私たちの役目であり、それが積み重なることで世の中が発展する」ということを説いています。たとえ小さく目立たない事でも、自分らしく一生懸命に取り組む。その姿勢がやがて周りを巻き込み、結果として未来を拓く大きな力となります。私達人間はすぐ大きな成果や派手に目立つ活躍に目を奪われがちですが、どこかの片隅で誰の目にも止まらないようなものに目を向けて活動することも、同じように大切であることを忘れてはいけないと思います。地方のしがない会社員の 1 人ですが、この言葉を胸に、仕事でも日常生活でも今置かれている環境に感謝しながら、これからも私らしい人生を歩んでまいります。

最後になりましたが、皆様のご健康とご活躍をお祈り申し上げます。

令和 6 年能登半島地震による学校の被害状況



第 2 体育館への通路



第 2 体育館前駐車場



生徒玄関付近



職員玄関前通路



職員玄関前外灯



羽咋高校関東同窓会 名誉会長 中18 羽咋・島出
ふるさと関東羽咋会 名誉会長
元共栄大学客員教授

倉部 行雄

〒178-0063 東京都練馬区東大泉6-8-22
Tel /Fax 03-3922-1157

卒寿プラス・6 (96才) で、皆様のご多幸を祈念します。
同窓会出席率より生存率。同窓会、欠席すれば死亡説。

高2 宝達志水・宝達

プラスチック・ガラス試作と精密加工
分注器機 開発 制作



不二技研工業株式会社

代表取締役
会長

西井 信夫

〒170-0012 東京都豊島区上池袋3-4-11
Tel 03-3917-6137(代) Fax 03-3915-1313

生涯現役！ 若人頑張れ！！

高10 羽咋・吉崎

塗装工事
防水工事
リフォーム工事
知事許可第18772号



株式会社 ハクイ 建築

取締役会長 土田 米蔵

〒223-0065 横浜市港北区高田東2丁目1番15号
TEL 045(542)0711
FAX 045(542)0637
携帯 090-3230-4180
E-mail: hakui@watch.ocn.ne.jp

若い世代を大切に！俺が俺がにならないこと。

高10 志賀・安津見

株式会社 村田製作所 代理店

岡谷電機産業株式会社 代理店

日立エーアイシー株式会社代理店

ビシェイジャパン(株)代理店

電子部品総合商社



多摩パーツ株式会社

取締役会長 大矢 昭雄

本社：〒214-0031
川崎市多摩区東生田1-13-5 多摩パーツビル
Tel 044-900-3801 FAX 044-900-3310

物流部：〒214-0031
神奈川県川崎市多摩区東生田1-13-6
Tel 044-900-3801 FAX 044-900-3310

ふるさと関東羽咋会 会長 高14 羽咋・粟生
同志社女子大学 名誉教授

商学博士 ^{やま じょう} 山上 徹

〒182-0004 東京都調布市入間町3-6-44
Tel/Fax 03-3789-3722

ふるさと羽咋の情報をお互いに共有し、発信しましょう！

ライフホーム有限公司

Life Home

宅地建物取引業神奈川県知事免許 (6)21721号
電気工事業者神奈川県知事登録 第220042号

代表取締役 宅地建物取士第一種電気工事士

松田 建次

〒223-0062横浜市港北区日吉本町2丁目22-23
TEL 045-564-3588 FAX 045-561-5902
第1級アマチュア無線局 JRI-DPC横浜 日吉

陽だまりに安住すること勿れ

高15 志賀・清水

ONE♡NEO

高19 羽咋・釜屋

株式会社ワン・ネス

いしかわ観光特使

犬塚 清美

〒174-0041 東京都板橋区舟渡2丁目4-3-1005
TEL & FAX: 03-3967-1156
E-mail: kiyomi0770@gmail.com

人生100年の時代！まだまだ楽しく生きたいですね♡

松沼 医院

内科・小児科・循環器科・呼吸器科

院長 松沼 恭一

〒929-1414 石川県羽咋郡宝達市水町敷波247
Tel 0767-29-3188 Fax 0767-29-2991

地域医療に頑張っています！

羽咋高校関東同窓会 相談役 高20 宝達志水・上田
宝達志水関東ふるさと会 副会長
いしかわ観光特使

赤 池 清

〒110-0003 東京都台東区根岸3-6-1
根岸拾番館2F(株)羽興
TEL 090-1842-7573 ㊚ uko@h2.dion.ne.jp



みんなで校長応援を！！ そして能登復興を！！

羽咋高校関東同窓会 高20 志賀・高浜
副会長 兼 会計・IT担当
いしかわ観光特使

南 雄二

〒252-0226 神奈川県相模原市中央区陽光台4-10-14
TEL 080-5956-5979
✉ yuji.minami@hotmail.co.jp

地域貢献でデジタル推進のボランティアしています。

羽咋高校関東同窓会 副会長 高21 宝達志水・上田
宝達志水関東ふるさと会 会長
いしかわ観光特使

大 崎 繁 一

〒359-1111 埼玉県所沢市緑町4-35-6
TEL 090-9240-9581
✉ sfk-oosaki@msc.biglobe.ne.jp

同窓会集う阿呆に來ぬ阿呆同じ阿呆なら來なきや損々！

いしかわ観光特使 高22 羽咋・千里浜

オーナー 杉浦 節美

風の沢ミュージアム



風の沢ミュージアムは、現代美術館、ギャラリー、
カフェ、ショップ、里山公園からなる複合施設です。
〒987-2302 宮城県栗原市一迫片子沢外の11

電話：0228-52-2811
<http://www.kazenosawa.jp/>
MAIL：info@kazenosawa.jp

集まりの悪い22回生！ 年老いた顔を見せ合おう。

取締役専務執行役員 高25 羽咋・釜屋
創業研究所・開発企画部・製剤技術開発部
学術博士 いしかわ観光特使

山川 富雄



日本ケミファ株式会社

創業研究所 埼玉県三郷市彦川戸1丁目22番地
〒341-0005 Tel 048-952-4311 Fax 048-952-0743
本 社 東京都千代田区岩本町2-2-3
〒101-0032 Tel 03-3863-1211
t-yamakawa@chemiphar.co.jp
<http://www.chemiphar.co.jp>

関東同窓会25回生の方、是非一度参加してください。

経団連会員 高25 宝達志水・敷浪
いしかわ観光特使

(株)ラングスジャパン 代表取締役 小林美紀



〒155-0032 東京都世田谷区代沢4-34-15
03-5430-9181
info@rangsjapan.co.jp



とどろき医院

本部同窓会 会長

轟 千 栄 子

〒925-0027 石川県羽咋市鶴多町切道8-4
Tel 0767-22-7855 Fax 0767-22-0676

高27 羽咋・川原

有限会社 牛勝

高27 羽咋・川原
携帯電話 090-8966-0848

代表取締役

番 匠 久 雄

ばん しょう ひさ お



□本社 / 本店 〒925-0033 石川県羽咋市川際町テ 27-3
Tel 0767-22-0029 Fax 0767-22-8429
□カウイン牛勝(アルブラザ鹿島) Tel 0767-76-2304

羽咋高校関東同窓会 会長 高27 宝達志水・上田
宝達志水関東ふるさと会 事務局
稲荷第一町会 理事(総務部長)
いしかわ観光特使

赤 池 典 充

〒340-0003 埼玉県草加市稲荷5-35-36
TEL 090-2334-9276 MAIL:ntsk-aka@outlook.com

大変な時こそ、笑顔で周囲の人を元気づけて進もう！

宝達志水・杉野屋

高下謹彦法律事務所(第一東京弁護士会)
石川県人会副会長
金沢大学教育学部附属高等学校同窓会



弁護士

高下 謹彦

〒104-0061 東京都中央区銀座5丁目8番5号
ニューギンザビル10号館4階
TEL.03-5568-6655(代)

宝達志水町に実家があります 懐かしさで一杯です

石川県知事免許(5)第3606号

株辰実不動産

二級建築士
石川県地震被災建築物応急危険度判定士

営業 三宅 悠也

〒925-0032 羽咋市東川原町柳橋73-2
TEL 0767(22)5789℥ FAX 0767(22)2133
HP 090-7743-6711
E-mail: miyake@k-tatumi.jp
ホームページ: http://www.k-tatumi.jp

不動産屋さんの空き家管理

～空き家管理のノウハウを伝授し、建物から暮らしまでのお悩みを解決～

月単位から
年単位まで
1泊～空家で
お泊りのお申し込み
行います

空気の入れ換え
かび対策
防虫対策
防湿対策
防カビ対策
防臭対策

Instagram・ホームページがお気軽にお問合せください。
生まれ育った故郷の景観を守るために
ふるさと納税で空き家になっている
ご実家の維持・1棟成金社 辰実不動産



空き家の管理・手放したいとお考えの方サポートします。

オムライスカフェ「和華」

自家栽培の野菜をたっぷり使った健康的なオムライス
一日9食限定なので、お電話ください。

営業時間 金・土・日・月 11:30～16:00

住所 石川県羽咋郡宝達志水町杉野屋井129

☎ 090-4684-6952【橋本(泉沢)敏子 高27 羽咋・千里浜】



高36回 いしかわ観光特使

吉田 亮基 (羽咋・吉崎)

どんこつ専門店
栄道

11:30～14:00 19:00～翌4:00
年中無休 ラストオーダー 3:30



吉野町店
〒232-0014 横浜市内南区吉野町 2-6-19
TEL 045-263-0465



ジェラートに羽咋ギュッと 全国3位・鍋島さん店オープン



ジェラート専門店「Raccolla Gelato ラコルタ・ジェラート」

★日本ジェラートマエストロに認定

★2022年マエストロコンテストで3位

地元農家が作った旬の果物や野菜を

ジェラートで地元の人に食べていただきたい!

営業時間 木～月 12:00～18:00

住所 羽咋市東川原町柳橋 74-1

☎ 0767-23-4365



令和4年度会計報告(令和4年9月1日～令和5年8月31日)

収入の部	金額	内容
総会・懇親会・会費	398,746	懇親会会費 同窓会補助 絆(名刺広告)
寄付金	10,000	
本部助成金	200,000	
広告料	260,000	
預金利息	4	
前年度繰越金	348,508	
収入合計	1,217,258	
支出の部	金額	内容
総会費	398,746	会場費、飲料費、スクリーン代、吊看板代 他 会場室使用料 事務消耗品 切手、はがき、レターパック、宅配便 交通費補助、新聞広告費 絆18号(制作費・印刷費・送料)
会議費	58,890	
事務費	76,023	
通信費	127,093	
本部・支部交流会費	156,903	
会報費(会報18号)	268,067	
支出合計	1,085,722	

次期繰越金

¥131,536

令和6年度 羽咋高校 関東同窓会 第65回総会 講演会 懇親会 開催のお知らせ

日時：9月28日(土) 受付：11時30分～

総会：12時～12時40分

講演会：12時50分～13時50分

懇親会：14時～16時

会場：アルカディア市ヶ谷 (私学会館)

TEL.03-3261-9921(代) 千代田区九段北 4-2-25



☆今年もオンライン Zoom で参加できます

Zoom 参加希望者は下記へメールで参加の連絡をして下さい

*事務局(發田)：hotta.akira@outlook.jp

*件名:関東同窓会Zoom参加

①氏名(卒業回) ②Zoom参加申込

③後日参加用URLをメールします

出席される先生：井上 政人 校長 先生

小山 紀彦 教頭 先生 (41 回生)

宮崎 宏正 先生 (32 回生)

講演会講師 **大乗 勇 二** (39 回生) 水泳部 宝達志水・子浦
羽咋郡宝達志水町立 宝達中学校 教頭

【演目】令和5年度 全国学力・学習状況調査で、宝達志水中学校は好成績を納め、全国紙に報道されました。その秘訣は？



実家は「おだまき」で有名な谷口菓子店。のとじまトライアスロン2022を完走。今でも泳げます。

懇親会 会費：	一般	¥10,000.
	29歳以下	¥5,000.
	学生	¥1,000.

折口信夫先生の貴重な資料は 関東同窓会の方々の尽力により 羽咋市へ寄贈となりました

おりぐちしのぶ
折口信夫先生の資料は、直弟子の米津千之氏(東京学芸大学教授)が所持していたが、米津氏の遺族から木下嘉平氏(七尾高校関東同窓会前会長)の知人が譲り受け、更にその資料は國學院大學博物館に寄贈される方向に進んでいた。

赤池清 前会長は、藤田折口父子記念会会長から「是非 羽咋市に」と懇望され、牧山郷土資料館長と藤田会長共に上京して5者面談を実施し合意に至る。「羽咋市へ寄贈決定!」の喜びのニュースは早速 岸 博一羽咋市長に報告された。

この功績により、折口父子記念会から関東同窓会が表彰されました。



さらに
折口信夫の直筆短歌 19 点
新たに発見される

国際姉妹校ワンサギ高校との交流!

昨年(2023年)オーストラリアの姉妹校ワンサギ校の代表が当校を訪れ、交流を深めました。関東同窓会から記念品として気多大社の「御守り」を贈呈しました。今年は本校から代表団がオーストラリアのワンサギ校を訪問予定。



気多大社で神事の体験

編集後記

元旦早々 能登地方を襲った大地震。本誌編集に携わる我々も郷里の家族や友人達の安否を気遣い、母校羽咋高校の甚大な被害状況の知らせに胸を痛めました。

そんな状況下でのスタートとなった本号『絆』の編集作業。今回、掲載のためご寄稿いただいた同窓の皆様の記事を拝見しながら、郷里や母校を案ずる心は一つであるなどの思いを強くしました。

今は故郷を遠く離れて暮らす自分たちもそして卒業年度や世代は違っても、仲間の無事を祈り、母校を愛し、郷里を思う心に些かの違いもないことを知りました。

そんな我々の関東同窓会会報『絆』は、今後も縦横にネットワークを広げて、卒業生・在校生の母校愛を育む一助となることを願うばかりです。 笹川道博 (28 回生)